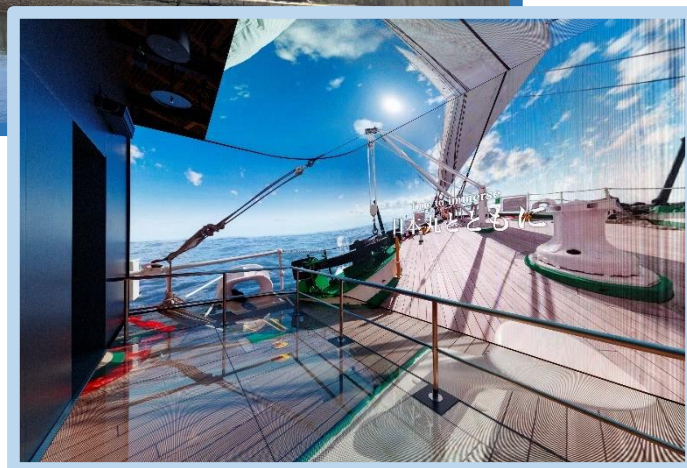


令和4年度事業報告書



公益財団法人 帆船日本丸記念財団

目 次

1	令和4年（2022年）度事業概観等	2
2	帆船日本丸事業	4
3	横浜みなと博物館事業	6
4	みなとの賑わい創出事業	10
5	緑地管理・活用及び研修施設事業.....	12
6	集客増に向けた重点取組	13
7	組織運営の質的向上に向けた取組.....	18
8	令和4年（2022年）度事業一覧表	20

1 令和4年(2022年)度事業概観等

(1) 施設概要

- ア 施設名
日本丸メモリアルパーク
- イ 所在地
横浜市西区みなとみらい二丁目1番1号
- ウ 対象施設等
 - (ア) 帆船日本丸（国指定重要文化財）
総トン数 2,278t
 - (イ) 横浜みなと博物館
7,155.31 m²
 - (ウ) 研修施設
873 m²
 - (エ) 緑地
38,778 m²
 - (オ) その他
タワー4棟

(2) 施設管理者

- ア 受託団体
公益財団法人帆船日本丸記念財団
- イ 代表者
理事長 青木 治
- ウ 所在地
横浜市西区みなとみらい二丁目1番1号
- エ 財団設立
昭和59年（1984年）10月1日
※平成23年（2011年）6月1日 公益財団法人へ移行
- オ 指定管理期間
令和4年（2022年）4月1日から令和14年（2032年）3月31日まで（第4期）

(3) 事業概観

令和4年(2022年)度は、第4期指定管理の初年度となりました。

横浜みなと博物館は、6月に待望のリニューアルオープンとなり、施工者である横浜市と協力して、お客様に良好な状態でご見学いただけるよう努めました。特別展示事業や教育活動事業も再開し、海、港、船に親しむ多彩な活動を行いました。



リニューアル後の横浜みなと博物館

帆船日本丸は、日々の船体整備に加え国庫補助事業による修繕工事を実施しました。

特に、木製ヤードを交換する船体整備においては、クラウドファンディングという新たな手法を取り入れ、寄附金の一部を経費に充当することができました。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響は受けたものの、こうした取組や観覧料金の改定もあり、来場者数及び事業収入は、前年度に比べて大幅に改善することができました。

目標項目	4年度目標値	4年度実績 (3年度実績)	対3年度比
帆船日本丸及び横浜みなと博物館の有料入場者数	124,000人	79,251人 (26,520人)	298.8%
日本丸メモリアルパーク利用者数	750,000人	452,607人 (332,310人)	136.2%
お客様満足度	97%以上	95.1% (99.2%)	4.1ポイント減
効率的な財政運営・人材育成及び風通しの良い職場作り	推進	推進	推進

(4) 新型コロナウイルス感染症対策

令和4年(2022年)度は、第7波、第8波による急激な感染拡大があり、引き続き、検温や手指消毒などの感染対策を徹底するとともに、事業内容を一部変更しました。

- ・常設展示（VRシアター・ライブラリー）見学時の人数規制
- ・貸会議室（訓練センター）の収容人数制限（定員の3分の2）
- ・その他状況に応じて対応（宿泊海洋教室の中止など）
- ・帆船日本丸のボランティアによる船内ガイドの中止
- ・横浜みなと博物館におけるボランティアによる展示案内及び教育活動の中止

2 帆船日本丸事業

帆船日本丸は船齢93歳となりました。国指定重要文化財として、今後末永く保存するため、職員による船体の整備、美観保持作業及び帆装艀装の整備を日々継続しました。

保存事業においては、著しい経年劣化が見られたメインマスト上から2番目の木製アップーゲルンヤード(Upper Topgallant Yard)及びミズンマスト上から3番目の木製ロワーゲルンヤード(Lower Topgallant Yard)を新材の使用により更新しました。同ヤードは、昭和27年(1952年)戦後初の帆装艀装復旧当時のもので、歴史的価値の高いものであることから、横浜市及び文化庁と事前に協議した上で実施しました。

公開事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながら、帆船日本丸を活用した参加・体験型事業の講座(主機(エンジン)の操縦装置に触れる体験等)を実施しました。ガイドボランティアによる船内案内は、すべて中止としました。

青少年錬成事業においては、通常の海洋教室に加え、「よこはまこどもマリンスクール」の宿泊海洋教室を再開しました。

これらに加え、各種講座等の開催や、船内展示の定期的な内容更新(令和4年(2022年)9月、世界一周の途次に初寄港したノルウェーの帆船「スターツロード・レムクル号」から寄贈されたクリスタル等の展示)を行い、リピーターの確保に努めました。

(1) 保存事業

国指定重要文化財帆船日本丸の美しい姿を末永く保存するため、次の整備を実施しました。

ア 日常保守点検

- ・乗船者見学通路・公開区域の安全点検、整備、美観保持
- ・船体鋼材の発錆部整備及び船内真ちゅう磨き
- ・マスト、ヤードその他帆装艀装の点検・整備
- ・船体木部の点検・整備

イ 災害防止

- ・乗船者及び甲板整備協力者の安全確保
- ・船内防災センターにおける火災、浸水、地震及び不法侵入者等に備えた24時間体制の集中監視

ウ 年次船体整備点検・整備

- ・中間検査受検工事等
- ・木製ヤード製作・交換(クラウドファンディングによる寄附金の一部を充当)
- ・フォアマスト デッキ貫通部木製ウエッジ交換
- ・訓練用ヤード交換(令和3年度に交換した旧ロイヤルヤードを転用)
- ・フォア及びメインマスト トップボード上バッテン材(静索用当て木)交換
- ・メインマスト ゲルンボード鋼製枠及びスプレッダー切替え
- ・メインマスト バックスティ白塗装部塗膜剥離及び白ペイント総塗装
- ・木製ヤード部分塗装(本船作業)



新木製ヤードの加工・製作



大型クレーンによる木製ヤードの取り付け

(2) 公開事業

帆船日本丸船内を年間282日公開しました。展帆を12回、満船飾を14回実施し（11月3日は両方実施）、普段は見ることのできない帆船日本丸の美しい姿をご覧いただきました。

夏休み期間中には、「子ども向け船の講座」や「ロープ作成体験」を実施しました。親子で体験する宿泊海洋教室も企画し、多数の参加申し込みがありました。が、新型コロナウイルス感染症が拡大したため、中止を余儀なくされました。

1月22日には、令和3年（2021年）度に引き続き大人向け船の講座として、船長による「港「横浜」に寄港した世界の帆船と日本丸」を開催しました。同講座では横浜港に寄港した大型帆船の概要と、重要文化財「帆船日本丸」との構造上の共通点・相違点等を紹介しました。

これらの活動を通して、市民の皆様に帆船日本丸から得られる知識や経験を共有していただき、帆船日本丸の100年保存に対する理解を得られるように努めました。



展帆と満船飾



子ども向け船の講座

(3) 青少年錬成事業

帆船日本丸における錬成事業（海洋教室等）は、訓練施設において様々な体験型訓練と団体生活を行うことにより、時間厳守、公德心、体力・精神力の向上、注意力、友愛、協調性、責任感及び積極性を習得してもらうとともに、海・港・船に関する理解と知識の増進を図ることを目的としています。

令和4年（2022年）度は21回の海洋教室（半日・1日・宿泊コース）を実施し、海事思想の普及を図りました。実施に当たっては、実施団体と事前に訓練プログラムを調整し、可能な限り参加者の希望に沿ったプログラムを実施できるよう努めました。

その他、35年以上に渡り実施されてきた「よこはまこどもマリンスクール」の事業を支援しました。



甲板磨き



よこはまこどもマリンスクール開校式

3 横浜みなと博物館事業

令和3年（2021年）6月より工事が行われていた横浜みなと博物館は、令和4年（2022年）6月28日にリニューアルオープンしました。オープン日には、横浜市立本町小学校4年生をお迎えしてくす玉割などを実施しました。リニューアルオープンを記念した展覧会やイベントも実施しました。新設の展示の管理を横浜市と協力して行うとともに、新設展示を活用したイベントを実施するなどお客様に新しくなった博物館を楽しんでいただけるよう努めました。



博物館リニューアルオープンを祝い、満船飾と横断幕を掲揚した帆船日本丸



博物館リニューアルオープンセレモニーの様子

博物館常設展示室のリニューアルオープンにあわせ、柳原良平アートミュージアムも開設以来の大規模な展示替えを行いました。特集展示はお客様のご意見をふまえてスペースを広げ、より多くの作品が展示できるようにしました。

博物館ボランティア活動については、再開に向けて研修や説明会などを実施し、令和5年（2023年）度スタートへの準備を進めました。

特別展示事業では、前述のリニューアルオープン記念展と同時に「タイタニック日本人生存者の手記」の公開、帆船日本丸の93回目の進水記念日を祝したパネル展を実施しました。



「世界の客船ポスター展」展示風景



特別展示「タイタニック日本人生存者の手記」

教育活動事業は10月から再開しました。博物館クイズラリーや企画展関連事業、学芸員による展示解説、外部からの講師を招いたゲストトークなど多彩な事業を行いました。その他、横浜市が大黒ふ頭に設置した収蔵施設に収めた資料等の点検を行いました。



展示替えを行った柳原良平アートミュージアム



特集展示「柳原良平が描く 横浜の港の風景」

(1) 常設展示事業

博物館のリニューアルに伴いバーチャルリアリティシアター（以下VRシアター）の新設やプロジェクションマッピングなどの最新の映像技術等を導入したため、これらが常に良好な状態で稼働し、多くのお客様に楽しく利用していただけるよう、新設展示の操作方法に習熟するとともに、日常の保守点検やトラブル時の速やかな対応に努めました。



新設された「埋立と築港の技術と歴史」

リニューアルオープンを記念し、6月から7月にかけて、横浜みなと博物館と帆船日本丸船内計4か所でスタンプを集める「港と船のスタンプラリー」を実施、スタンプをすべて集めた方には特製ステッカーをプレゼントしました。本事業の印刷物等のデザインは市内専門学校の学生の協力を得て制作しました。

10月から、土日祝日に、子どもから大人まで参加できる月替わりの博物館クイズラリーを開始しました。新設展示の問題を組み込み、新しい展示に注目しつつ博物館を楽しんでいただけるよう努めました。

また、お客様に快適な見学環境を提供するため、温湿度の計測を行うとともに、水分補給場所の設置、展示什器他のカビ等の被害を未然に防ぐ取り組みを行いました。

(2) 特別展示事業

リニューアルオープン記念展として、10月に「ベストセクション 世界の客船ポスター」を開催しました。当館所蔵のポスターから欧米と日本の海運会社が発行した1890年代から1960年代までの客船ポスターを約80点展示しました。華やかな客船の時代を振り返るとともに、当館の資料収集活動について紹介する機会となりました。

このポスター展にあわせて、お客様の関心の高い「タイタニック日本人生存者の手記」を博物館1階で特別展示しました。

博物館ロビーでは、帆船日本丸の93回目の進水記念日を祝して1月から2月にかけて「日本丸進水記念パネル展」を実施しました。併せて、特別展示室では日本丸航海記録映像上映会を開催し、日本丸の現役時代を記録した映像4本を上映しました。

展覧会名	会期
リニューアルオープン記念展「ベストセクション 世界の客船ポスター」、特別展示「タイタニック日本人生存者の手記」	10月8日～12月4日
ワークショップ「船のポスターを描こう」作品展示	10月25日～12月4日
日本丸進水記念パネル展、日本丸航海記録映像上映会	1月24日～2月26日

(3) 柳原良平アートミュージアム事業

柳原良平アートミュージアムでは、およそ150点の資料を展示替えしました。特集展示では、6月から「柳原良平が描く横浜の港の風景」を実施、横浜港の広報誌「よこはま港」の表紙用切絵を中心に横浜港を描いた作品を展示しました。10月からは「世界の客船ポスター展」と連動した「柳原良平と船の旅」を開催しました。

3月に柳原良平アートミュージアムが5周年を迎えました。記念事業の一環として、学芸員による展示解説を4回行うとともにご寄附を活用して修復を行った水彩画「山下公園よりQ E 2」を展示しました。

展覧会名	会期
柳原良平が描く 横浜の港の風景	6月28日～10月2日
柳原良平と船の旅	10月4日～4月23日 ※会期延長
柳原良平アートミュージアム5周年記念 特別展示 水彩画「山下公園より QE2」	3月20日～10月15日

(4) 教育普及事業

「世界の客船ポスター」展の関連事業として、ワークショップ「船のポスターを描こう」を実施しました。「よこはま港」の表紙作品を描いている船舶イラストレーター・画家の中村辰美氏を講師に迎え、船の描き方や構図などを学び、ポスターを制作しました。参加者が作成した作品は博物館1階で展示しました。また、展示への理解を深めるため、学芸員による同展の展示解説を6回行いました。

10月、横浜繊維振興会のみなさんを講師にお迎えして、「ゲストトーク シルクスペシャル」を実施しました。横浜港の主要輸出品であった生糸からシルクスカーフができるまでの講演と、スカーフアレンジメントショーを博物館ロビーで実施しました。横浜スカーフ親善大使の来場やスカーフの販売会も行い、横浜の地場産業であるシルクスカーフについて親しむ機会となりました。



ゲストトーク シルクスペシャル
横浜繊維振興会のみなさんによる
「スカーフができるまで」

(5) 所蔵品の適切な管理

博物館の浸水対策として横浜市が大黒ふ頭に新たに設置した収蔵施設を月1度程度点検するとともに博物館内収蔵庫、書庫の環境保全及び資料・図書の良好な保管のため、定期的な清掃と資料の点検及び再梱包作業等を実施しました。

国指定重要文化財帆船日本丸附(ついたり)資料(532点)の文化庁及び横浜市等関係者による修繕設計作業に協力しました。また、クラウドファンディング実施に伴い、帆船日本丸の無線日誌(146冊)等の修復を進めるための準備作業を行いました。



帆船日本丸附資料修繕設計作業

(6) その他

ア ボランティアへの対応

令和5年(2023年)度の活動再開を目指し館外研修を行うとともに、1月以降展示案内および教育活動ボランティアの研修等を実施しました。

イ 助成金の獲得ほか

新しい助成先の獲得に努め、一般財団法人山縣記念財団から事業助成を受けることができました。さらに、令和5年(2023年)度以降の企画展の事業助成を受けるため、みなとの博物館ネットワーク・フォーラム等2件の助成申請を行いました。

4 みなとの賑わい創出事業

(1) 利用者への利便性向上

帆船日本丸及び横浜みなと博物館を訪れるインバウンド旅行者の利用も視野に入れながら、利用者の利便性向上を図るため、各券売窓口でクレジットカードや電子マネーの利用が可能なレジシステムを導入し、入館料のキャッシュレス化を実現しました。

(2) 水辺の事業

都心のインナーハーバーに立地する好条件を生かした、水辺に親しむ体験型事業を実施し、みなとの賑わい創出に貢献しました。

シーカヤック教室では、日本丸メモリアルパークの内水域及び自動車側水域を中心に、NPO法人横浜シーフレンズと連携し、教室を開催しました(計64回開催、延べ610人参加)。



シーカヤック教室



カヌーポロ教室

カヌーポロ教室では、横浜市カヌー協会及びNPO法人横浜カヌー倶楽部と連携し、大人から子どもまで広い世代で参加できるよう、上達レベルを合せて教室を開催しました(計14回開催、延べ177人参加)。

新型コロナウイルスまん延防止等重点措置の解除もあり、シーカヤック教室、カヌーポロ教室ともに全日程を開催することができました。

(3) パーク利用事業(イベント)

パーク内の舗装工事が終了し、新型コロナウイルスの感染が縮小傾向になったことから、リピーターのイベント利用が戻ってきました。

市民交流やコンサートをはじめとする音楽イベントなど計52件開催することが出来ました。

夏には、新たな試みとして展帆日に合わせ「地産地消キッチンカー」の出展やタワー棟A利用者のお母さん業界新聞社による「DEARWELL 祭」などを開催しました。リピーターでは、FMヨコハマ「沖縄チャンプルーカーニバル」、中小企業の情報発信を行っているスマートニッチ応援団による「さかな文化祭」を開催しました。また、初めて横浜マラソンスタート前整列場所として協力しました。



FMヨコハマ「沖縄チャンプルーカーニバル」



「さかな文化祭」アリーナ開催の様子



「さかな文化祭」室内開催の様子

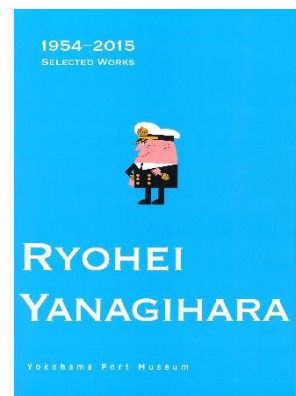


「横浜マラソン」スタート前整列の様子

(4) ミュージアム・ショップ事業

横浜みなと博物館がリニューアルしたことにより、仮設店舗から従来の場所に戻り、車椅子やベビーカーでもショッピングを楽しめるようにレイアウトを変更しました。

取扱商品では、リニューアルオープン記念の世界の客船ポスター展で展示されたポスターに因んだクリアファイルやノートを販売しました。その他、柳原良平アートミュージアム5周年を記念し、平成29年(2017年)に開催した企画展「柳原良平 海と船と港のギャラリー」の図録を再販しました。



柳原良平企画展の図録



ポスター展に因んだクリアファイル

お支払いにあたっては、suica や pasmo などの交通系電子マネーや i D、クイックペイなどのキャッシュレスに対応し利便性の向上を図りました。

5 緑地管理・活用及び研修施設事業

(1) 緑地の維持管理・活用

ア 安全管理

市民をはじめ様々な来場者がパークを安全かつ快適にご利用いただけるよう、日々の巡回とともに、春には職員による施設の破損等の不良個所を調べる特別点検を実施しました。

高木の枯れ枝が強風で落下する危険がある個所は、グリーンボランティアのご協力のもと、活動の一環で点検と枝落としの対策を行いました。

パーク内高木に営巣するカラスの巣を初期の段階で撤去しました。

歩行者のつまずき転倒の危険がある歩道の段差、敷石のぐらつきの解消も行いました。



高木ハシゴでの作業

イ 環境管理

花と緑を整備し来街者の快適性の維持向上に努めたほか、横浜市都市整備局が設置したさくら通りの花壇における緑化活動も継続しました。

また、近隣団体が実施している植栽イベント後の花の提供を受け、パーク内緑地の花壇に再活用しました。

さらにガーデンネックレスの一環として、横浜市環境創造局から提供を受けた横浜市限定品種のチューリップ「ラバースタウン」を育てる取組を行いました。



まちかど花壇



博物館屋上の花壇



チューリップ「ラバースタウン」

ウ 撮影

緑地や帆船日本丸をはじめとした日本丸メモリアルパーク内の魅力的な空間やさまざまな施設、設備を利用し、横浜を舞台とした映画の大規模な撮影をはじめ、テレビドラマ・映画・CM・雑誌など、合計129件の御利用をいただきました。



撮影風景

(2) 研修施設(訓練センター)の管理運営

令和4年(2022年)4月1日のご予約より、改定した利用料金を適用したほか、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用者数を定員の2分の1としていた措置を3分の2に緩和したことなどにより、令和3年(2021年)度比65%増と利用者が増加しました。

また、今年度よりプレゼンテーションルームの貸し出しも行いました。

6 集客増に向けた重点取組

(1) マーケット別取組の強化

ア 法人マーケット(教育旅行及び企業・団体等法人)への取組

(ア) 教育旅行マーケット

5月～7月には、豊島区立中学校8校連合行事「横浜うみの学習」を昨年に引き続き受け入れました。

JTB横浜支店と協働で教育旅行用プログラム「みなとの学校 In YOKOHAMA」を制作しました。

併せて、公益財団法人日本修学旅行協会発行の「月刊教育旅行」への広告掲載等を実施し、同マーケットへの認知度向上、誘客促進に努めました。

※「みなとの学校 In YOKOHAMA」⇒博物館を基点として一般社団法人横浜港振興協会・NPO

法人横浜シティガイド協会・京浜フェリーボート（株）と連携したプログラムで、探求意欲を高め、“学び”ながら横浜を体験する主に中学生向けの探求学習プログラムです。

みなとの学校 In Yokohama

“学び”ながら横浜観光。横浜らしい見所を探究的な流れで見ていきましょう！



みなとの学校 In YOKOHAMA

(イ) 企業・団体等法人マーケット

団体誘致のための営業活動も、令和3年（2021年）度同様新型コロナウイルスの影響により、テレワークの導入等による企業活動が変容するなか、令和5年（2023年）度以降に向けた各法人との接点の継続保持に努めました。

a 旅行会社商品へのプラン参画

旅行支援策「Find Your YOKOHAMA キャンペーン（以下：FYY）」や「神奈川県民割等の割引」を旅行商品に導入した旅行会社のプランへ参画しました。さらに、（株）阪急交通社、（株）ポケットカルチャー、（株）はとバス、一般財団法人横浜市交通局協力会旅行センター等とのタイアップ及び市内中小旅行会社の受入を行いました。中でも今年度新規の阪急交通社の送客が4,000人超えとなりました。

また、JTB主催の団体用旅行企画商品「JTBならではの」に参画しました。令和5年（2023年）度も参画を継続いたします。

※Find Your YOKOHAMA キャンペーン⇒横浜観光コンベンションビューロー（以下：YCVB）が実施したコロナ禍での横浜市内への誘客のための観光支援策です。

※JTBならではの⇒JTB 及び JTB 提携販売店のみで販売できる団体向けコンテンツ・プログラムを造成し、全国の JTB 及び JTB 提携販売店の法人営業担当者が販売する商品名です。

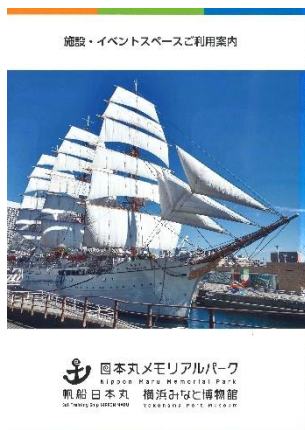
b 「リーダーシップ体験プログラム」の制作

帆船日本丸を利用した法人向け新規プログラム「リーダーシップ体験プログラム」を制作し、トライアルでモニター参加による実施をしました。



リーダーシップ体験プログラム

c 施設紹介ツールの制作



リニューアルオープンに合わせて改修した施設も含めたパーク内施設の営業用ツール「施設・イベントスペースご利用案内」の制作及びや財団ホームページ掲出用紹介サイトを制作しました。

令和5年（2023年）度より受注に向け本格的に営業・プロモーションを実施してまいります。

施設紹介ホルダー（表紙）

※「リーダーシップ体験プログラム」⇒船上での「リーダーシップ・コミュニケーション」を体感し、組織内での「リーダーシップの取り方・部下とのコミュニケーションの取り方」を学びヒントを見つけていただく企業・団体の次期リーダー候補者を対象とした研修プログラムです。（株）JTBコミュニケーションデザイン（以下：JCD）と施設紹介ツールも含め共同で制作しました。

d その他

リニューアルオープンに伴い、割引利用提携団体の横浜市勤労者福祉共済（ハマふれんど）へ営業をし、初めて同団体会員向けに入館券を会報誌で告知宣伝をしていただき、一括販売しました。

※ハマふれんど⇒会員事業所 4,390 社・会員数 74,448 人、主管：横浜市経済局雇用労働課 横浜市が実施する市内中小企業で働く皆様のための福利厚生制度です。

イ MICE マーケットへの取組み

令和4年（2022年）12月に、前述の「リーダーシップ体験プログラム」をパシフィコ横浜主催の横浜グローバルMICEフォーラム参加者用プログラムとして採用いただき、33人の参加がありました。

また、令和5年（2023年）2月には、YCVB主催の「MICE商談会 YOKOHAMA SHOW CASE 2023」にエントリーし、前述の施設紹介ツール「施設・イベントスペースご利用案内」を利用し、MICE誘致に向けた商談会に参加しました。

ウ 個人マーケットへの取組

（ア）オンライン販売（E-ticket）チャンネルへの取組継続

令和2年（2020年）度から開始したE-ticket販売を、アソビュー（株）、楽天チケット（株）、（株）JTBの計3社で継続しました。また、アソビュー（株）へ個人向けに入館・シーカヤックをFYY対象商品として販売いただきました。

(イ) リアル販売チャンネルへの取組

a 旅行会社

JTBが令和4年(2022年)度実施した個人向け商品「エンジョイ東京横浜」に、当施設が参画している「ぐるっとパス 2022」を組み込んで横浜の観光コンテンツとして販売しました。令和5年度も継続し個人需要底上げを図ります。

b ぐるっとパス 2022 への参画

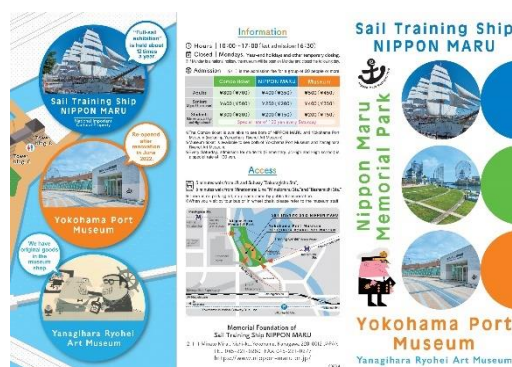
令和4年(2022年)度からQRコード、スマホ画面での参画が開始となり、ぐるっとパスの継続販売に取組みました。

※ぐるっとパス⇒美術館・博物館等共通入場券&割引券 東京都を中心とする101の美術館・博物館等の入場券や割引券がセットになったお得なQRコードチケットです。主管：東京都ぐるっとパス実行委員会

エ 外国人客(訪日・在日外国人客)マーケットへの取組

6月に訪日外国人受入が再開されたことにより、外国人客が増加しました。

多言語対応として、QRコード内容の更新と英語版リーフレットの作成等、令和5年(2023年)度外国人受入に向けたツール類の整備を行いました。



英語版リーフレット

(2) 広報・宣伝への取組－プロモーションを主体とした取組

横浜みなと博物館のリニューアルを主たる素材として特に広告・宣伝媒体への露出の実施や継続取組を行いました。

ア リニューアルに関連した主な広告・宣伝媒体への露出

- ・ 7月1日～31日 みなとみらい駅、周遊バスサイネージ
- ・ 7月1日～31日 新横浜駅 サイネージ
- ・ 7月18日～31日 動く歩道のフラッグ広告
- ・ 9月1日～30日 横浜駅タワーアトリウムVISION

イ 横浜みなと博物館リニューアルインフルエンサーPR施策

8月にInstagramを利用した「リニューアルキャンペーン(一般参加者によるフォト投稿コンテスト)」を実施しました。期間中(8月10日～19日)には、インフルエンサー18名のInstagram投稿による情報拡散を実施し、フォロワー数拡大による認知度向上を図りました。



動く歩道フラッグ広告

(3) 地域連携による賑わいの創出

ア 関係機関

(ア) 一般社団法人横浜みなとみらい21(以下:YMM)

YMMが進めているアート&ミュージアム構想への参画を始めました。7月～9月には、周遊企画「みなとみらいは知にあふれている 自由研究のテーマを探しにいこう」(デジタルスタンプラリー)に参画しました。

(イ) 海洋都市横浜うみ協議会

8月1日から9月30日まで、同協議会主催のバーチャルうみ博2022へ参加し、オンラインコンテンツとして、「日本丸動画(めがおに先生が行く 日本丸のお仕事紹介)」を掲出しました。

(ウ) 神奈川県

「令和4年度かながわサイエンスサマー」へ海洋教室・親子シーカヤック・船の講座などの広告出稿しました。

※かながわサイエンスサマー⇒夏休みから秋にかけて、県内の研究機関・大学・企業・施設等が開催する科学系の講座や体験教室をパンフレット等で紹介する広報宣伝名称。6月下旬に31万部発行、神奈川県内の小中高等学校等へ配布。特に小学4～6年生(約23万人)には、学校経由で児童全員へ配布。主管：神奈川県政策局 いのち・未来戦略本部室

イ 近隣施設・ホテル

(ア) 当館作製の、テーマ性を追求した「文化遺産めぐりマップ」の内容を横浜ハンマーヘッドと横浜赤レンガ倉庫協力のもと更新、制作しました。

(イ) 新型コロナウイルスの影響でホテル側の要請により中止をしていた入館券付き宿泊プランの販売を1ホテルと9月から再開しました。

(ウ) 7月より新規取組として、水陸両用バス「スカイダック」との相互割引の取扱いを開始しました。

(4) インターネットの活用

従来の紙媒体から、より多くの人へ、かつ迅速に情報を提供できるWebサイトを活用した情報の発信に努めました。

特に、展帆や帆船日本丸船内風景などについてInstagramとFacebookを活用した情報発信及び拡散に努めました。

併せて、販売チャンネルの活用策の一環として当財団サイトでチケットのオンライン販売を継続しました。令和5年(2023年)度も継続、販売強化に努めます。

7 組織運営の質的向上に向けた取組

(1) 風通しの良い職場作り

日々の朝礼で各担当から連絡事項の伝達、報告等を行い、職員全員で必要な情報を共有しました。毎週木曜日には管理職による業務調整会議を実施し、懸案や課題の解決を図るとともに、その会議内容を職員へ情報共有する職員ミーティングを定例開催しました。

安全衛生委員会では、職場でのヒヤリハットの事例や国等の安全衛生に関する取組について共有するとともに、職場での職員の労働安全の課題解決に取り組みました。その他、スタッフを常駐させている警備、設備、清掃事業者と毎月1回安全衛生協議会を開催しました。課題等を共有することで、施設の安全な維持・管理の徹底を図っています。

(2) 各種研修会の実施・参加

全職員にかかわる研修として、人権啓発研修（延べ40人参加）、コンプライアンス研修（延べ29人参加）、個人情報保護及びセキュリティ研修（延べ30人参加）等を実施しました。その他、横浜市や他団体が主催する研修会等に参加しました。

新規展覧ボランティアを対象とした養成訓練を実施（13人参加）するとともに、墜落制止用器具の取扱いに関する研修（学科及び実技）を実施（延べ23人参加）しました。

博物館では、学芸員が博物館制度や博物館の防災に関する研修会に参加するとともに、博物館ボランティアの研修を実施（延べ97人参加）しました。

(3) 防災訓練の実施

ア 財団主催の訓練

- ・リニューアルした博物館で避難訓練を実施（22人参加）
- ・文化財防火デー（1月26日）に日本丸で防災訓練※を実施（24人参加）

※西消防署との共同による避難誘導、はしご車による救助訓練、放水訓練

イ みなとみらい地区の訓練

- ・合同防災訓練（9月5日）
- ・情報伝達訓練（3月6日）

(4) アンケート調査(モニタリング)の実施

令和4年11月13日から12月28日に実施し、103件の回答を得ました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、従来のアンケート用紙へ記入する方法ではなく、オンラインによる非接触型の回答方法で実施しました。調査結果の主な内容は次のとおりです。

ア 来場回数

初めて来場した方は、帆船日本丸では55.3%、横浜みなと博物館では48.5%でした。日本丸、横浜みなと博物館ともに、また来たいと答えていただいたお客様は99%でした。

イ スタッフの対応

大変満足、満足と回答していただいた方の割合は、日本丸では100%、横浜みなと博物館では94.1%と、どちらも非常に高い評価をいただきました。

ウ 総合的な満足度

帆船日本丸、横浜みなと博物館それぞれの感想は次の表のとおりでした。

	大変満足・満足	やや不満・不満
帆船日本丸	98.8%	1.2%
横浜みなと博物館	91.3%	8.7%

いずれの施設にも満足いただけなかった方は103名中5人(4.9%)でしたので、総合的には95.1%の方に満足していただけたと考えています。

引き続き、来場者に気持ちよく利用していただくために、おもてなしの心で常に改善を行い、お客様満足度の向上に努めていきます。

8 令和4年(2022年)度事業一覧表

【帆船日本丸事業】	
帆船日本丸公開	船内を年間 282 日一般公開、公開日は次の日を除く毎日 ・月曜日（祝日に当たる時は公開、翌日が休館日） ・年末年始（12月29日～1月3日） ・船体整備（1月28日～2月28日）
展帆(12回) 延べ 723 人のボランティアが参加	4月17日(日)、5月15日(日)、5月29日(日)、6月11日(土)、 7月3日(日)、7月17日(日)、9月11日(日)、9月24日(土)、 10月9日(日)、10月16日(日)、10月23日(日)、11月3日(木・ 文化の日) ※5月21日、9月11日、10月16日は総帆展帆。その他は部分展帆。 ※10月16日は展帆を追加して実施
親子展帆	実施せず
満船飾(15回) 国民の祝日等に実施	4月29日(昭和の日)、5月3日(憲法記念日)、5月4日(みどりの日)、 5月5日(こどもの日)、6月2日(開港記念日)、6月28日(横浜みなと博物館リニューアルオープン)、 7月18日(海の日)、8月11日(山の日)、9月15日(重要文化財指定記念日)、 9月19日(敬老の日)、10月10日(スポーツの日)、11月3日(文化の日)、 1月9日(成人の日)、1月27日(進水記念日)、3月21日(春分の日) ※9月23日(秋分の日)、11月23日(勤労感謝の日)、は雨天のため実施せず。 ※2月23日(天皇誕生日)は船体整備期間のため実施せず。
海洋教室	半日・1日・宿泊コース合計 21 回 参加者 621 人 ・半日コース：6月23日 62 人(午前・午後)、7月24日 7 人、 7月26日 44 人(午前・午後)、7月29日 4 人、7月31日 3 人、 8月26日 28 人、12月4日 33 人、 ・1日コース：4月8日 43 人、6月24日 36 人、6月28日 44 人、 7月1日 38 人、7月7日 51 人、7月8日 39 人、9月8日 33 人、 9月9日 30 人 ・宿泊コース：6月8日～9日 41 人、6月18日～19日 17 人、 8月2日～3日 37 人、8月9日～10日 31 人
教育普及事業	実施回数 3 回、参加者 46 人 ・8月11日、子ども向け船の講座『船はどうして浮くのだろう』を実施(14名) ・11月13日、大人向け船の講座『帆船日本丸の主機(エンジン)の迫力を感じよう』を実施(24名) ・1月22日、船の講座『港「横浜」に寄港した世界の帆船と日本丸』を実施(8名)
総帆展帆協力者登録数	2,331 人 総帆展帆協力者として登録されている市民ボランティア ※新規展帆ボランティア養成訓練(13人参加)：4月期・10月期各1回(4課程)実施
日本丸船内ガイド登録数	47 人 日本丸船内のガイドとして登録されている市民ボランティア

甲板清掃ボランティア等	85 日の作業日に延べ 513 人のボランティアが真ちゅう磨きなどの整備作業を実施
その他	墜落制止用器具取扱い研修（座学及び実技） 1 回実施 12 名参加（内、富山県海王丸より 1 名実技のみ実施）
【横浜みなと博物館事業】	
常設展示事業 4 月～3 月	年間 229 日一般公開、公開日は次の日を除く毎日 月曜日（祝日に当たる時は公開、翌日が休館日） ※令和 3 年度に引き続き、4 月～6 月に横浜市によるリ ニューアル工事実施。6 月 28 日リニューアルオープン
展示案内 4 月～3 月	展示案内ボランティア（登録ボランティア 31 人）に よる常設展示の説明は中止
特別展示事業	1 リニューアルオープン記念展「ベストセレクショ ン 世界の客船ポスター」 会期：令和 4 年 10 月 8 日～12 月 4 日 7,325 人 ※10 月 7 日に報道機関向けの内覧会を実施 3 社 3 名参加 ※関連事業 ワークショップ「船のポスターを描 こう」講師：中村辰美氏（船舶イラストレータ ー・画家） 10 月 22 日午前午後各 1 回実施 32 人参加 ※関連事業 学芸員による展示解説 10 月 22 日、 11 月 12 日、12 月 4 日 各日午前午後 6 回実施 計 81 人参加 2 特別展示「タイタニック日本人生存者の手記」 会期：令和 4 年 10 月 8 日～12 月 4 日 ※1 階新着 資料コーナーで実施 19,835 人 3 ワークショップ「船のポスターを描こう」作品展示 会期：令和 4 年 10 月 25 日～12 月 4 日※1 階新着 資料コーナーで実施 14,108 人 4 日本丸進水記念パネル展 会期：1 月 24 日～2 月 26 日 ※1 階ロビーで実施 8,042 人 5 日本丸航海記録映像上映会 会期：1 月 24 日～2 月 26 日 ※特別展示室で実施 8,042 人 6 新着資料展示 ① 6 月 28 日～10 月 6 日 19,463 人 ② 2 月 18 日～7 月中旬予定 6,823 人（3 月 31 日まで）
柳原良平アートミュージアム事業	1 特集展示「柳原良平が描く 横浜の港の風景」 会期：6 月 28 日～10 月 2 日 18,541 人 2 特集展示「柳原良平と船の旅」 会期 10 月 4 日～4 月 23 日※会期延長 37,017 人（3 月末日まで）

	3 柳原良平アートミュージアム 5 周年記念特別展示 水彩画「山下公園より QE2」 会期：3 月 20 日～10 月 15 日 ※柳原良平アートミュージアム 5 周年記念展示解説 3 月 21 日、28 日午前午後 4 回実施 16 人
教育普及事業	1 横浜みなと博物館リニューアルオープン記念港と船のスタンプラリー 6 月 28 日～7 月 31 日 938 人参加 協力 岩崎学園横浜デジタルアーツ専門学校、横浜国立大学はまみらいプロジェクト 2 博物館クイズラリー 10 月 8 日より土日祝日実施 55 回実施 1,393 人参加 3 ゲストトーク シルクスペシャル 10 月 23 日 34 人参加 協力：横浜繊維振興会、横浜国立大学はまみらいプロジェクト ※教育活動ボランティア（登録ボランティア 22 人）によるワークショップ（折り紙教室、船のペーパークラフト教室）は中止
調査・研究・収集・出版活動事業	1 資料調査・研究等事業 横浜港を中心とした資料の調査、研究、収集、整理、保存を行い、その成果を公開及び展示・教育活動に反映 ・資料整理のデータベース化を推進 ・横浜港絵葉書約 200 枚を WEB 上に公開 ・寄贈 816 点、購入 0 点、採集 503 点 ・収蔵庫・書庫燻蒸（2 月 13 日～17 日） ・港内撮影、初入港客船・帆船等の撮影 58 回 2 出版活動 ・リニューアル記念展「世界の客船ポスター」展示図録 ・令和 5 年度発行予定の博物館ニュース制作準備 3 資料貸出・レファレンス ・資料の貸出・閲覧、写真撮影のほか、レファレンスサービスを実施 ・資料（画像）貸出：テレビ東京「新・美の巨人」、（一財）産業遺産国民会議など 23 件 83 点 ・資料特別利用：横浜市港湾局客船事業推進課 1 点（閲覧） ・資料貸出：利用なし
ライブラリー事業	横浜港や船、海に関する図書・逐次刊行物等を収集・整理・公開し、小学生から専門家に学習・研究の場を提供。データベース化の蔵書情報は Web サイトで公開。 1 公開日・公開時間 常設展示事業と同様 ※リニューアルオープンに伴い 6 月 28 日より再開 2 利用方法（料金等） 博物館の入館者の利用は無料。ライブラリーのみ

	の利用は1人100円。コピーサービス（有料）のほか、レファレンスサービスを実施 3 収集・整理 ・横浜港、港運、海運、船舶、航海等に関する図書、逐次刊行物等を収集（購入9冊・寄贈98冊・その他16冊）・整理して配架 ・図書のデータベース化（約26,897冊）を進めるとともに、保守点検、データの整理等を行い良好な状態を維持 ・データベース修正作業実施
施設外部貸出	1 特別展示室 横浜帆船模型同好会、横浜歴史資産調査会 計2件 2 常設展示室1階展示スペース 横浜税関広報室1件
その他	1 活動休止中のボランティアへ博物館の活動を知らせる文書を7回送付 2 帆船日本丸附資料修繕設計対応 6月7日、8日 3 リニューアルオープンに伴う特別内覧及び視察対応等 特別内覧約18件、視察約20件 4 大黒収蔵施設内資料の点検作業 13回 5 外部団体への出張講演、シンポジウム登壇（オンライン含む）、執筆等 9件 6 博物館ボランティア向け内覧会及び説明会実施 6月4日、5日実施 46人参加 ※ボランティア向け不要本の頒布会を実施（頒布は無償。会場に募金箱設置） 7 博物館ボランティア館外研修 12月13～15日 33人参加 8 展示案内ボランティア研修 2回（1月20～22日 24人参加、3月10日～12日 24人参加） 9 教育活動ボランティアリフレッシュ研修 3月25日、26日実施 16人参加 10 助成申請 2件 令和5年度企画展：みなとの博物館ネットワーク・フォーラム、一般財団法人山縣記念財団
【みなとの賑わい創出事業】	
水辺の事業 シーカヤック教室 カヌーポロ教室	水辺の事業の柱として、水域及び自動車道側水域で、シーカヤック教室、カヌーポロ教室を開催。 1 シーカヤック教室の通年開催 64回開催、610人参加、利用料金は前年度比約236% 2 カヌーポロ教室の開催（4月～10月） 14回の開催、延べ177人参加
パーク利用事業イベント	1 コーリムジカ・MAKAInaluFESなどの音楽イベント（貸出）、FMヨコハマ「沖縄チャンプルーカーニバル」（貸出）、中小企業の情報発信を行っているスマートニッチ応援団による「さかな文化祭」（貸出） 2 横浜マラソンスタート前整列場所（横浜マラソン組織委員会事務局）

	3 横浜みなとみらい21関係イベント 「汽公道における生物調査（アマモ観察）」
ミュージアム・ショップ事業	1 帆船日本丸、横浜みなと博物館、柳原良平アートミュージアム及び横浜にちなむ商品を販売 2 横浜みなと博物館のリニューアル工事により、従来の場所での営業が出来ないため、総合受付横に仮設店舗を設け、規模を縮小し、営業 3 来館できないお客様にも商品を購入していただけるようオンラインショップを開設
【緑地管理・活用及び研修施設事業】	
緑地の維持管理・活用	パーク来場者及び地区来街者向けの景観向上、賑わいの創出 1 緑地 博物館屋上は幼児から高齢の方までが憩える場所として緑地を管理 2 撮影 TVドラマ、映画、CM、雑誌など利用件数 129 件  直営作業による花壇づく
グリーンボランティア	近隣地域住民を中心として日本丸メモリアルパークの緑花整備に理解ある協力者12人（登録者数）が、年間を通じて緑化のボランティア活動を実施 1 活動日（毎月第1・第3土曜日午前中） 2 主な活動内容 (1) カラスやトンビなどからの危害防止及び害虫駆除 (2) 花壇・プランターの植栽手入れ (3) 横浜みなと博物館屋上芝生の手入れ 3 その他の活動 水域を含むパーク内及び周辺歩道の清掃、さくら通り歩道上「まちかど花壇」緑花維持管理作業
研修施設（訓練センター）の管理運営	1 貸出期間 12月29日～1月4日、2月13日～18日及び休館日を除く全期間 ※設備点検のため部分的に貸出不可日あり 2 利用料金の改定（4月1日～） 3 Webサイトによる予約受付及びシステムの改良 4 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策 (1) アルコール消毒液、サーキュレーター等の備品を配備 (2) 会議室毎に1日当たり1回の貸出を実施
【集客増に向けた重点取組】	
マーケット別取組（通年） 団体需要創出	1 法人マーケット（B2B・B2B2C）への取組 (1) 教育旅行マーケットへの取組 【来校実績】来校数 503 校（299 校増） 昨年に引き続き豊島区立中学校 8 校連合行事 8 校・延べ 937 人（58 人増）の受入実施 ア JTB横浜支店との協働での教育プログラム「みなとの学校 In YOKOHAMA」制作

個人・グループ需要創出	イ 『月刊教育旅行』へ修学旅行誘致のための広告を毎月掲載 ・ 4～12月 リニューアルオープン告知 ・ 1～3月「みなとの学校 In YOKOHAMA」告知 (2) 企業・団体等法人マーケットへの取組 ア 旅行会社 ・ 旅行支援策「FYY」(YCVB主管)等の実施に伴い取扱旅行会社商品へのプラン参画 【販売実績】集客人数 4,837 人 (4,334 人増)・金額 1,421 千円 (920 千円増) ・ JTB「日本の旬東京 横浜 (JTB ならでは) 団体用企画商品」へのプラン参画 【販売実績】集客人数 90 人・金額 120 千円 (全増) イ 「リーダーシップ体験プログラム」の制作 (ア) JCD との協働による「リーダーシップ体験プログラム」制作及びモニター利用の実施 【参加実績】10 人 (イ) 施設営業ツール「施設・イベントスペースご利用案内」制作並びにサイト制作 ウ その他 (ア) 特定企業・団体との割引提携施策の継続 【提携数】6 法人 (7 法人減) 【利用実績】利用人数 1,550 (1,296 人減)・金額 712 千円 (220 千円減) (イ) 横浜市勤労者福祉共済 (ハマふれんど) への入館券一括販売 【販売実績】枚数 659 枚・金額 350 千円 (前年度設定なし) 2 MICE マーケット (1) 12/18 パシフィコ横浜主催横浜グローバ MICE フォーラム参加者用プログラム販売・受入 【参加実績】33 人 (前年度実施なし) (2) 2/21 YCVB 主催 MICE 商談会 YOKOHAMA SHOW CACE2023 へ参加 【商談実績】6 社 (前年度実施なし) 3 個人マーケットへの取組 (1) オンライン販売 (E-ticket) チャンネルへの取組継続 E-ticket 販売 3 社と取扱継続 【販売実績】3 社合計 2,011 枚、2,239 千円 (793 枚増、1,784 千円増) (2) リアル販売チャンネルへの取組 ア 旅行会社 JTB の個人向け商品「エンジョイ東京 横浜」へぐるっとパス 2022 をコンテンツとして参画 【販売実績】2 枚 イ ぐるっとパスへの参画 広告の掲出及びパスの販売及び利用受入を実施 【販売実績】枚数 24 枚 (13 枚増)
--------------------	--

	【利用実績】2,130人（1,410人増）・販売収入593千円（前年度0） (3) 外国人マーケットへの取組 【入館実績】有料入館者数2,546人（1,985人増） QRコード更新や英語版リーフレットを制作し、外国人受入に向けたツール類を整備 (4) 新規マーケットへの取組 地域関連機関とのタイアップによる施策継続及び新規需要掘り起し ア YMM事業アート&ミュージアム構想への参画 イ 8/1～9/30 海洋都市横浜うみ協議会主催のバーチャうみ海博2022へオンラインコンテンツ出展 ウ 7～9月神奈川県政策局主管「かながわサイエンスサマー」への参画 エ 近隣ホテル連携で宿泊プランへの入館券組込み再開		
広報・宣伝への取組	リニューアルを主たる素材として、広報宣伝・プロモーションを実施【年間広告宣伝出稿実績】221件（69件増）うちリニューアル関連52件 1 メディアへの取組 新聞社、TV、ラジオ局等への情報発信の実施 2 プロモーションを主体とした取組 (1) リニューアル関連新規取組 ア 広告宣伝媒体への露出 4か所実施 イ 横浜みなと博物館リニューアルインフルエンサー施策の実施 8/1～31でInstagramを利用したリニューアルキャンペーン（フォトコンテスト）を実施 期間中（8/10～19）には、インフルエンサー18名のInstagram投稿による情報拡散を実施 【配信実績】総フォロワー数407,000件、総獲得いいね数3,764件 (2) 観光情報サイト、地域誌の活用 横浜観光情報、MinatoMirai21、ヨコハマ経済新聞、タウンニュース、るるぶ横浜等に掲載 (3) 地域連携による広報宣伝・プロモーションの実施 文化遺産めぐりマップ更新（横浜ハンマーヘッド・赤レンガと連携）		
【組織運営の質的向上に向けた取組】			
各種研修会の実施及び参加実績			
主催部分の財：財団、他：市又は団体			
月日	研修名	参加者数	主催
4月1日	新採用職員研修	4人	財

4月3日 9日 10日 23日	新規展帆ボランティア養成訓練	6人	財
4月12日	フルハーネス型安全帯使用作業特別教育	1人	財
10月1日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育（学科）	11人	財
10月1日 2日 15日 22日	新規展帆ボランティア養成訓練	7人	財
10月8日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育（実技）	9人	財
10月22日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育（実技）	3人	財
11月11日 18日	救急救命講習	2人	他
12月8日 9日	みなと博物館ネットワークフォーラムスキルアップ 交流会	1人	他
12月13日 14日 15日	博物館ボランティア館外研修	33人	財
1月20日 21日 22日	博物館展示案内ボランティア研修	24人	財
1月26日 ～ 2月18日	人権啓発研修	29人	財
2月1日	文化庁博物館新登録制度 Zoom 説明会	1人	他
2月9日 16日	個人情報保護及び情報セキュリティ研修	30人	財
2月19日	人権啓発研修	11人	財
2月22日 24日	コンプライアンス研修	29人	財
3月10日 11日 12日	博物館展示案内ボランティア研修	24人	財
3月25日 26日	博物館教育活動ボランティア研修	16人	財
3月31日	日本博物館協会公開シンポジウム（これからの博物館 防災を考える）	1人	他